

指導の手引

教材の使用にあたっては、「指導の手引」を示しておりますので、指導の一例として参考にしてください。この指導事例を参考にして、学級の実態に応じて御利用ください。

指導の手引の見方

◆主題設定の理由

- (1) ねらいや指導内容についての教師の考え方
- (2) (1) と関連する児童の実態と教師の願い
- (3) 使用する資料の特質や取り上げた意図及び児童の実態とかかわらせた指導の方策

◆学習指導過程

学習問題

◆他の教育活動などとの関連

- ・特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連、事前の指導や事後の指導の工夫など
- ・家庭や地域社会との連携、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導、保護者や地域の人々の参加や協力などの工夫

主 題 名 希望・勇気・強い意志

1 資 料 名 「さぬきの夢2000」誕生

2 主題設定の理由

(1) 人間としてよりよく生きるために、常に目標や希望を持ち、それに向かって努力を続けることは大切なことである。「目標」には、将来の夢のように長い期間をかけて達成を目指す遠大なものもあれば、身近な生活の中にある小さなものもある。たとえ日常生活の中の小さな目標であっても、それが達成できたときの満足感は、自信につながり、次のステップに向かう意欲となる。しかし、小さな目標が実現しなかつたり不安があったりすると、すぐにあきらめて挫折してしまいがちである。多少の困難があっても、目標実現に向けて粘り強く挑戦を繰り返すことこそ、成功につながる第一歩であり、その積み重ねが生涯をかけ人生の理想を達成しようとする強い意志に結びつくものと考えられる。

中心価値	関連価値
1 - (2) 希望・勇気・強い意志	4 - (8) 郷土愛

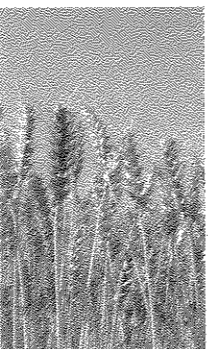
(2) 生徒の中には何かに取り組んでいても、ささいな失敗で簡単にあきらめたり、投げ出したりしてしまい、根気よく続けることができない者が少なからずいる。物質的に恵まれ、豊かすぎる現代社会に生きる子どもたちは、我慢することを学ぶ機会すらなくなっており、粘り強くやり抜くことができない。また、長期的な計画を立てて先の目標を見通しながら努力することが苦手な生徒も増えている。困難に負けず、自分の意志を貫いて目標を達成するまでチャレンジし続ける意欲を育てていきたい。

(3) この資料は、うどん作りのための香川産小麦を開発するために、小麦の品種改良を試みた研究員の苦勞を描いたものである。その開発過程では、作業が緻密なうえ何回実験しても失敗を繰り返す。周りの声も冷たく、そのうえ花粉症に悩まされながらも、粘り強く目標実現に向けて努力を続け、いくつもの困難を乗り越えて「さぬきの夢2000」を生み出した郷土の実話である。

気が遠くなるほどの回数の作業を繰り返したからこそ見つけた成功であり、困難に負けずにやってみよう、やってみようという前向きな姿勢での取組だからこそめぐり合えた奇跡であることを、生徒の体験と照らし合わせて押さえていきたい。この話の後にも、四千種の品種をこの一つに絞り込み商品化するために、食味試験による選抜作業での苦勞・製粉作業での難点、製麺業者の工夫、さらに小麦農家の努力と、多くの分野の人たちの苦勞を経て「さぬきの夢2000」は完成する。これらの周囲の人々の努力や郷土愛についても触れておきたい。

3 板書例

「さぬきの夢2000」誕生



☆目標を実現するためには、どんなことを大切にすればいいのだろう。

「さぬきの夢2000」の名前に託された(人々の)思いを考えよう。

- ・ 多くの人の夢や期待
- ・ 郷土愛

この研究が成功したキーワードを考えよう。

- ・ 続けること
- ・ 信じること
- ・ 工夫すること
- ・ チームであたる
- ・ いろいろなる見方
- ・ めぐり合わせ

この人たちの生き方から学んだことは？

4 本時の学習

(1) ねらい

困難があってもあきらめずに、目標の実現を目指して努力を続けようとする意欲を高める。

(2) 学習指導過程

学習活動と学習内容	生徒の意識の流れ	指導上の留意点や支援の観点
1 さぬきうどんについて、その歴史を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ やっぱり香川のうどんってすごいんだ。 ・ 今でも日本一なんだなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段何気なく食べているうどんの歴史や食文化を「ふるさと教材」を使って説明する。
2 資料を読んで、「さぬきの夢2000」の研究が始まった背景を考える。 ① ずっと以前のさぬきうどん ② 50年前からのさぬきうどん	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔は家でうどんを作っていたんだ ・ 食べてみたいなあ。 ・ そういえば、うどんは買っているぞ。 ・ どんな香りだったんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと香川への思いやこだわりがあつてはじまった、多くの人の思いであったことをおさえる。
3 研究員の人たちの気持ちの移り変わりを考える。 ① 研究を始めようと思ったとき ② 失敗が続いたとき ③ 初めて胚が見えたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・ よし、やってみよう ・ 何年かかるかなあ。 ・ どうすればいいんだ。 ・ 無理かもしれない。 ・ 続けてきて良かった。 ・ 開発は今からだ。がんばるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究し続けた人たちの気持ちを、時間を追って考えさせる。 ・ 困難にぶつかったときの気持ちを中心に考えさせ、自分だったらどうするかも想像させる。 ・ 自分の意志だけでなく、周りの人の思いや協力があつて、続けられていることにも気づかせたい。
4 さぬきの夢2000の研究が成功した秘訣を考える。 ① 「さぬきの夢2000」の名前に託された(人々の)思いを考える。	<p>~~~~~ 目標を実現するためには、どんなことを大切にすればいいのだろう。 ~~~~~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 念願の夢が実現したことと、これからは郷土とともに発展する希望を持って、名付けられたのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成功の糸口が見えたときの喜びとそれまでの不安を対比させ、自分にも似た体験がなかったか振り返らせた。 ・ たくさんの夢や思いが詰まっていること、また、郷土への思いもあることに気づかせたい。 ・ この後もずっと開発は続いており、たくさんの分野での協力者も大勢いることを紹介する。 ・ 成功するためには、たくさんの要因があることに気づかせ、自分の言葉にすることで自分自身の生活と結びつけるようにする。 ・ 自分の思いや夢をふくらませるきっかけとなるよう助言を工夫する。
② この研究が成功したキーワードを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 努力を続ける ・ 信じる ・ チャレンジする ・ 助け合う ・ あきらめない ・ 運 	
5 これからの自分に生かせることを考えよう。		

(3) 評価の観点

登場人物の生き方を知り、成功の秘訣を見つけるを通して、目標を実現するために、物事を正しく判断し、困難に屈しないで粘り強く着実にやり抜こうとする心情が高まったか。

5 他の教育活動などとの関連

キャリア教育や職場体験前後の学習との関連を図ることができる。

主 題 名 充実した生き方

1 資 料 名 自分を信じて — 齋賀富美子 —

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、1-(3)「自主・自律」である。学習指導要領では、「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。」と示されている。自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。したがって、深く考えずに付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律することができなければならない。どのような小さな行為でも、それは自分で考え、自分の意志で決定したものであるとの自覚に至れば、人間はそれに対して責任をもつようになり、生涯において何かをなすときも、それを誠実に実行するようになる。

(2) 中学生の時期は、自我に目覚め、自主的に考え、行動することができるようになる。しかし、一方では自由の意味をはき違えて奔放な生活を送ったり、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されてしまったりすることも少なくない。

そこで、郷土の先人の生き方を学ぶ中で、人間として充実した生き方についての自覚を深めることができるようにしたい。


中心価値	関連価値
1-(3) 自主・自律	1-(2) 強い意志 1-(5) 個性の伸長 4-(10) 国際理解・人類愛

(3) 本資料は、アジア女性初、日本人初の国際刑事裁判所裁判官に選出された齋賀さんの人生を取り上げている。彼女は外務省に入省後、ノルウェー・デンマーク大使館に勤務したり、埼玉県副知事、シアトル日本総領事、人権担当大使などの職務を遂行したりしてきた。ノルウェーでは、現地の言語をマスターすることに全力を尽くしたり、どの仕事においても、自分の与えられた使命を感じ、責任をもってやり遂げてきた姿を描いたものである。さらに、その仕事のすべてが彼女が自分から希望したものではなかったが、その多種多様な職務を行う上で、彼女がどのような姿勢で仕事に臨んでいたか考えさせたい。彼女の信条「On the Job Training」で、新しい分野の仕事に挑戦した姿に触れさせたい。そして、彼女の生き方を通して、絶えず自己を高めることによって、よりよい充実した生き方を追求しようとする意欲を育てたい。

3 板書例

自分を信じて

齋賀富美子さん
アジア女性初 日本人初
国際刑事裁判所裁判官



私(齋賀さん)は、どのような気持ちで仕事に臨んでいたのだろうか。

○外交官になった時
・言葉(言語)を学ぼう。
・ノルウェーの国のことを知ろう。

○人権担当大使・裁判官になった時
・今までの人脈を生かし、人権問題に取り組もう。
・新しい組織の組織づくりに貢献していこう。
・国際社会の人権意識を高めていくために努力しよう。

☆どの仕事においても彼女が貫いた姿勢は何だったのだろうか?

・最善を尽くす
・自分のできることを一生懸命やりぬく

私の信条
[On the Job Training]

これから自分は?
・信念をもって生きていきたい
・自分の信条をもてるようにしたい
・何事にも挑戦していきたい

4 本時の学習

(1) ねらい

アジア女性初、日本人初の国際刑事裁判所裁判官になった齋賀富美子さんの生き方を知り、絶えず自己を高めることによって、よりよい充実した生き方を追求しようとする意欲を高める。

(2) 学習指導過程

学習活動と学習内容	生徒の意識の流れ	指導上の留意点や支援の観点
1 世界に貢献している日本人をあげる。	○世界に貢献している日本人には、どんな人がいるだろうか。 ・ボランティアに行っている人がいるなあ。 ・思いつかないなあ。	・心のノートp128・129を活用し、様々な分野で国際人として活躍している日本人がいることを知らせる。 ・香川県出身の齋賀富美子さんの存在を知らせ、国際刑事裁判所の簡単な説明をする。
2 資料の前半(～職務を遂行しています。)を読み、学習問題をつかむ。	○私(齋賀さん)は、どのような気持ちで仕事に臨んでいたのだろうか。	
3 齋賀さんの仕事に対する姿勢を考える。 ・外交官になった時 ・人権担当大使・裁判官になった時	○私(齋賀さん)はどのような気持ちで仕事をしていたのだろうか。 ・ノルウェーの外交官なので、まずノルウェー語を学ぼう。 ・ノルウェー語を学び、ノルウェーの国のことを知ろう。 ・今までの人脈を生かし、人権問題に取り組もう。 ・新しい組織の組織づくりに貢献していこう。 ・国際社会の人権意識を高めていくために努力していこう。	・資料に書かれていない努力や気持ちも予想しながら考えさせる。 (例)・ノルウェー語を初めて学ぶことの困難さ ・市町村を訪ねて歩くことのたいへんさ ・裁判について一から学ぶ苦勞 ・新しい仕事に就くたびに、自分自信で新たな努力をスタートさせていたことに気づかせる。
4 資料の後半(裁判所在任中の～)を読み、学習問題にせまる。	●私(齋賀さん)は、なぜ様々な仕事をすることができたのだろうか。 ・どの仕事においても、最善を尽くそうと思っていたから。 ・どの仕事においても、自分のできることを一生懸命やり遂げようという姿勢で取り組んだから。	・私(齋賀さん)は、ほとんどの仕事は自ら望んでいたものではなかったことを補足する。
5 これからの自分を考える。	○齋賀さんから学んだことをこれからどのように生かしていくかを考えよう。 ・齋賀さんのように、将来自分の信念をもって生きていきたい。	・心のノートp16・17を活用し、自分はどう在りたいか、今の自分はあるべき姿なのかを問いかける。

(3) 評価の観点

齋賀富美子さんの人生を通して、絶えず自己を高めることによって、よりよい充実した生き方をしたいという気持ちをもつことができたか。

5 他の教育活動などとの関連

身近な人々の職業に対する興味・関心を喚起させ、学活における進路指導や職場体験学習などとの関連を図ることができる。

主 題 名 働くことの意義と尊さ

1 資料名 手袋にかける

2 主題設定の理由

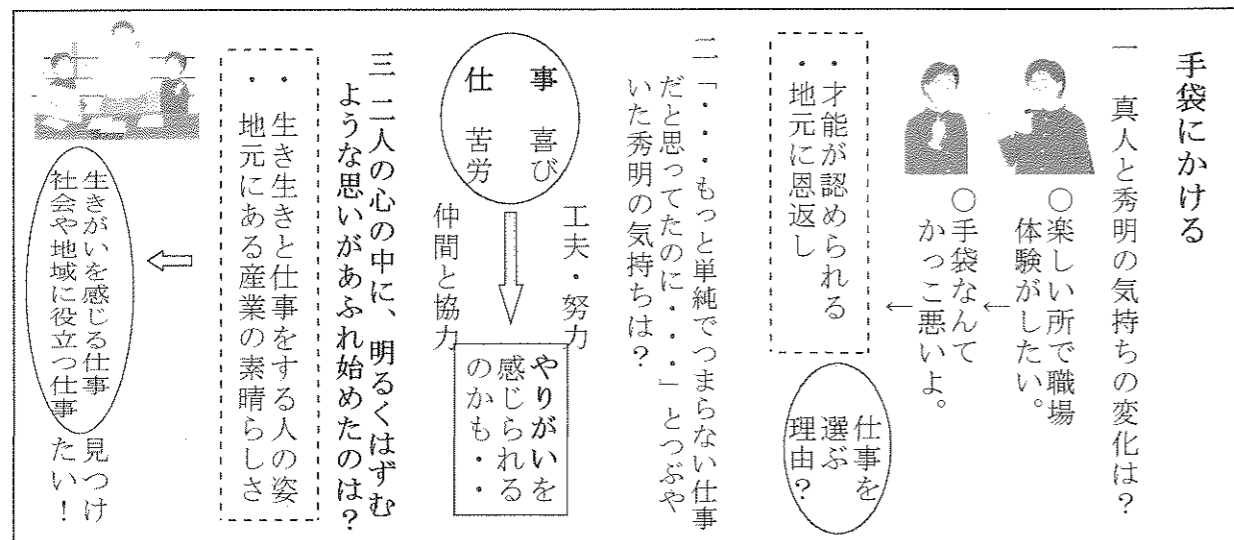
(1) 勤労は、人間が生活を営んでいく上で必要な基本的な要件である。勤労には、その対価として得た収入によって、個人の生活を維持・向上させることを目的とする一面がある。しかし同時に、人は自分の個性や能力を生かし、仲間と協力しながら働くことを通して、社会に貢献している。また、ボランティア活動のように、見返りを求めず、他人や地域社会のために汗を流して働く人々もいる。このように、自らが働くことを通して、社会を大きく支えるということも、勤労の重要な側面である。したがって、一人一人が勤労の尊さと意義を理解し、社会生活の発展・向上に寄与することが求められる。勤労や奉仕を通して自分が社会に貢献していることを自覚し、充実した生き方を追求していくことが、真の幸福につながっていくことにもなる。

中心価値	関連価値
4 - (5) 働くことの意義と尊さ	1 - (4) 理想の追求

(2) 中学生の時期は、幼少期に抱いていた将来の夢から、次第に現実的な進路決定へと意識を変え始める時期である。ところが、多くの生徒は、働くことの意義が実感として十分得られていない上に、様々な職業についての知識もほとんどないため、自分の将来について具体的な目標を持っていない。その問題を解決するためのキャリア教育の一環として、近年多くの中学校では職場体験学習を取り入れている。しかし、最近の中学生の多くには、自分の好きなことや、気の合う友だちと一緒に仕事には一生懸命取り組むが、興味・関心のない活動や、集団で行わなければならない仕事は嫌がる傾向がある。そのため、職場体験学習を表面的に捉え、楽しさやおもしろさだけを期待している生徒がいるのも現状である。そこで、道徳の時間と職場体験活動の関連に配慮し、生徒に勤労の意義や尊さを理解させ、社会形成に主体的に参画しようとする意欲や態度を身に付けさせることが大切である。

(3) 本資料は、職場体験学習で地元の手袋会社を訪問することになった2人の中学生が、地場産業を盛り上げることに生きがいを感じ、仲間とともに理想を追い求めて働く人たちの出会いにより、仕事に対して抱いていた考えや気持ちを、徐々に変えていく姿を描いたものである。指導にあたっては、働くことの意義と尊さを生徒に十分理解させ、勤労を通して社会に貢献することにより、生きがいのある、充実した人生を実現しようという意欲を高めたい。そのため、資料提示の仕方（前半、後半、終末と分けて提示）と発問を工夫し、2人の主人公の心の葛藤に迫らせたい。また、中心発問においては、小グループによる話し合い活動を取り入れ、一人一人の気持ちや意見をしっかりと伝え合わせ、交流させることにより、価値の自覚を深めたい。その際、生徒自らの今後の生き方を考えさせる場面を設定し、他人ごとではなく自分の事として、働くことの意義について考えさせるよう心がけたい。

3 板書例



4 本時の学習

(1) ねらい
主人公の気持ちの変化を考えることにより、働くことの意義を理解し、勤労や奉仕を通して社会に貢献し、充実した生き方を追求していこうとする心情を高める。

(2) 学習指導過程

学習活動と学習内容	生徒の意識の流れ	指導上の留意点や支援の観点
1 「職場体験活動でどのような所を訪問したいか」を考える。	・食べ物関係がいい。 ・かっこいい所に行きたい ・よくわからない。	・事前にとったアンケートの結果を紹介する。
2 資料の前半（～わいてきたんだ。）を読み、真人と秀明の気持ちの変化を考える。 ①職場体験の希望を書いた時 ②手袋会社の玄関に入った時 ③工藤さんがこの仕事を選んだ理由を語ってくれた時	・私たちの町にも、地場産業があるけど、何か地味だなあ。 ・かっこいい職場がいい。 ・楽しい所で活動したい。 ・ゆううつだなあ。 ・手袋なんてかっこ悪い。 ・工藤さんは自分の才能を認められて嬉しかったんだなあ。 ・地元で恩返しなんて、考えたこともなかったなあ。	・主人公の心の変化を考えさせるため、資料を区切って提示する。 ・導入部分で取り上げた、生徒達自身の職場体験活動に対する思いを振り返らせ、主人公に共感させる。 ・工藤さんの身の上話を聞きながら、仕事に対する2人の見方が変わり始めたことに気づかせる。
3 資料の後半（ちょうどその時～ずっと仕事を続けている理由を聞いてみた。）を読み、「・・・もっと単純でつまらない仕事だと思ってたのに。」とつぶやいた秀明の気持ちを考える。	・どうして、工藤さんと森さんは手袋会社でずっと仕事を続けているのかなあ。 ・仕事って、いろいろな喜びや苦勞があるんだ。 ・手袋会社は地味だけど、中で働く人たちは工夫しながら、やりがいを感じて仕事をしているのか。	・中心発問を生徒自身にじっくりと考えさせるため終末部分（「他のどこの物よりも～あふれ始めていた。」は伏せておく。）は伏せておく。 ・生徒自身が、地場産業や地元の中小企業に抱いていたイメージを思い起こすよう助言し、中心発問へとつなげていく。
4 資料の終末部分を読み、真人と秀明の気持ちを考える。		
手袋会社をあとにした真人と秀明の心の中に、明るくはずむような思いがあふれ始めていたのはなぜだろう？		
①自分が考えた真人と秀明の気持ちとその理由をワークシートに書く。 ②班内で、各自の考えを伝え合う。 ③班内で出された意見を発表し合う。	・生き生きと仕事をする人たちの生き方にふれたから。 ・地元にある産業の素晴らしさを知ったから。 ・自分も、生きがいを感じる仕事を見つけていきたいと思ったから。 ・職場体験で、仕事のことをいろいろ勉強したい。 ・自分も、社会や地域に役立つ仕事がしたい。	・自分自身の職場体験に対する思いを振り返って、2人の気持ちを想像するよう指示する。 ・班内の意見を一つにまとめるのではなく、いろいろな考えに耳を傾けるよう助言する。 ・今後の自分自身のあり方について考えながら、ワークシートに自分の思いを綴るように伝える。
5 今日の授業で感じたことをまとめる。		

(3) 評価の観点
話し合い活動の中で互いの気持ちや意見を交流させることにより、働くことの意義と尊さを理解し、勤労を通して、社会に貢献し、充実した人生を実現しようという心情が高まったか。

5 他の教育活動などとの関連

道徳の時間と、職場体験活動との関連を図ることができる。

主 題 名 ふるさとを愛する心

1 資料名 島にアートがやってきた

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、「郷土愛」である。学習指導要領によると4-(8)「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。」と示されている。今日、都市化あるいは過疎化へと進む中で、郷土に対する愛着や、郷土意識が希薄になっている傾向がみられる。しかし、生徒にとって、地域社会は家庭や学校とともに大切な生活の場である。郷土によってはぐくまれてきた伝統や文化に触れ、体験することを通して、そこに住むことの喜びが生まれ、地域社会の一員としての自覚がもてるようになり、郷土を大切にす心や態度もはぐくまれる。また、このような郷土をつくりあげてきた人々への尊敬や感謝の気持ちも生まれてくる。

地域の人々との人間関係を問い直したり、地域社会の実態を把握させたりして、郷土に対する認識を深め、郷土を愛し、その発展に努めるよう指導していく必要がある。

中心価値	関連価値
4-(8) 郷土愛	2-(6) 感謝 3-(2) 自然愛 4-(2) よりよい社会の実現

(2) 中学生にもなると、様々なメディア等を通してもたらされる情報によって、自分の日常の生活に満足できずに、より新しいもの、より都会的なものにあこがれる傾向が強い。また、放課後や休日にも部活動に参加して気のあった仲間と過ごす時間が多くなり、小学生のときよりもさらに地域社会に対する連帯感が薄くなってきている。このような実態を考えると、自分たちの住む郷土のすばらしさを見つめなおさせたり、郷土をつくりあげてきた先人や高齢者たちの努力に思いを寄せ、感謝の心を持ち、今後の人々のために引き継いでいくことの大切さを考えさせたりすることは重要である。

郷土を愛することができる自分のことを好きになり、郷土に夢や希望を持ち、一つの生き方を見いだせるように本主題を設定した。

(3) 本資料は、男木島に住む中学生が「瀬戸内国際芸術祭2010」を通して、男木島や島の人々の変容を振り返る話である。芸術祭をきっかけに、男木島の人たちがふるさとのよさを見直し、自分たちにできることを考え、島を訪れる人との交流を楽しみ、改めて自分たちのふるさとを見直すという内容である。

指導にあたっては、それぞれの場面ごとに、島の人たちの気持ちの変化を探っていく。そして、芸術祭を通して、自分たちのふるさとに対する思いがどのように変わっていったのかを想像させる。また、芸術祭では、男木島以外の島にも、多くの人々が訪れたことに触れ、地元の人たちには気づかない瀬戸内の魅力が人々を集めたことに注目させる。

終末では、「心のノート」を使って、自分たちのふるさとの魅力について考えさせるとともに、「ふるさとに自分ができることは何だろうか」という観点で話し合いをさせたい。自分も郷土の一員であると自覚をもたせ、郷土の発展に努めようとする心情や態度を育てたい。

3 板書例

島にアートがやってきた

瀬戸内国際芸術祭を通して、僕たちのふるさとに対する思いはどう変わったのだろうか。

『こんな島に?』

…とまどい、不安

○アートが身近なものに

○人との交流

・こえび隊と

・アーティストと

・島の人どうして

・島に来た人と

○島の風景を見直す

・新鮮

・美しい

『私たちの島はすばらしい』

…自信、誇り

自分たちにできることを考える

← 交流が広がる

← 私たちのふるさとの魅力は? 自分ができることは?

会話 笑顔 元気

4 本時の学習

(1) ねらい

「瀬戸内国際芸術祭」を通じた、男木島や島の人々の変化を探ることで、自分たちの住む郷土のすばらしさに気づき、郷土を愛し、郷土の発展に努めようとする心情や態度を育てる。

(2) 学習指導過程

学習活動と学習内容	生徒の意識の流れ	指導上の留意点や支援の観点
1 「瀬戸内国際芸術祭」について知っていることを発表する。 2 資料の冒頭部分を読み、学習問題をつかむ。	・高松の方の島で開催されたな。 ・たくさんの人がやってきたな。	・ポスターや作品集などがあれば見せる。 ・「～大きく変わった。」までを読む。
芸術祭を通して、僕たち（島の人々）のふるさとに対する思いはどう変わったのだろうか。		
3 資料を読み、男木島の人々の気持ちの変化を探る。 ①芸術祭の話聞いて ②芸術祭の準備中 ③芸術祭が開催されて	・「こんな島に?」 ・スケールが大きすぎてとまどうばかり ・制作過程を見る ・一緒に制作のお手伝い ・アートが身近なものになっていた ・人々が集まり、話をする家 ・島の風景を見直す ・うれしそうなおばあさん ・元気になったおばあさん ・「男木島が笑われんようにせんと。」 ・本気でアイデアを練る ・中学生も椅子、ガイドブックを作る ・会話や笑顔があふれる ・交流が広がる ・次の芸術祭が楽しみ	・島の人々の気持ちの変化の分かるところに線を引ながら資料を読ませる。 ・「こんな島に?」に込められた思いを想像させる。 ・島の人たちが芸術祭と関わる中で元気になり、島のよさを見直し、島外の人との交流を楽しむ様子をおさえる。 ・地元の人たちには気づかない魅力が人々を集めたことに注目させる。
4 なぜ、「瀬戸内国際芸術祭」で島の人々が元気になったのかを考える	・島のよさを見直し、自信をもったから ・自分たちにできることを考え、行動し、来た人に喜んでくれたから ・いろいろな人との交流が広がったから	・中学生の自分たちが自ら行動したことの意義について、考えさせる。 ・男木島以外の島にも視点を広げて考えさせる。
5 自分たちのふるさとについて話し合う。	・私たちのふるさとの魅力は何だろうか。 ・ふるさとに自分ができることは何だろうか。	・心のノート (p122, 123) を活用し、自分たちのふるさとについて考え、交流させる。

(3) 評価の観点

- ・男木島の人々の心の変化を想像することができたか。
- ・自分たちのふるさとのよさに気づき、自分ができることは何か考えようとする心情が高まったか。

5 他の教育活動などとの関連

総合的な学習の時間の「地域学習」や「ボランティア活動」と関連して学習を行うことができる。

主 題 名 ふるさとを愛する心

1 資 料 名 塩田開発の父 久米通賢一

2 主題設定の理由

(1) この主題でねらう中心価値は、「郷土愛」である。学習指導要領には4-(8)「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。」とされている。今日、都市化あるいは過疎化へと進む中で、郷土に対する愛着や、郷土意識が希薄になっている傾向がみられる。しかし、生徒にとって、地域社会は家庭や学校とともに大切な生活の場である。郷土によってはぐまれてきた伝統や文化に触れ、体験することを通して、そこに住むことの喜びが生まれ、地域社会の一員としての自覚がもてるようになり、郷土を大切にしたい心や態度もはぐまれる。また、このような郷土をつくりあげてきた人々への尊敬や感謝の気持ちも生まれてくる。郷土を愛し大切にすることは、長い間にわたって、今、自分たちが生活している郷土をつくりあげてきた伝統や文化、先人の努力に思いを寄せ、そのことに対する感謝の心を持ち、これを今後の人々のためにより発展させて引き継いでいくことである。

中心価値	関連価値
4-(8) 郷土愛	1-(2) 希望・勇気・強い意志

(2) 中学生の時期は、自我の確立を強く意識するあまり、ともすれば、自分が自分だけで存在していると考えがちである。このような傾向を考えると、自分だけで存在しているのではなく「社会に尽くした先人」によって自分が支えられて生きていることを自覚し、それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深めることは極めて大切なことである。

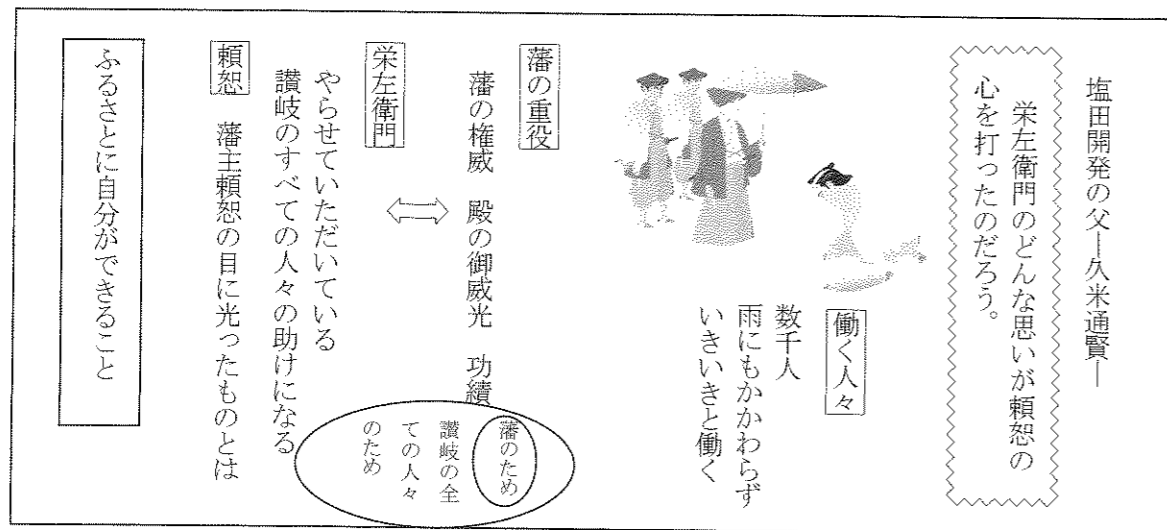
地域社会に尽くし、自己の人生を大切に生きてきた先人への尊敬と感謝の気持ちをはぐくむことができるよう本主題を設定した。

(3) 本資料は、献身的な働きで塩田開発を成功させた久米通賢の逸話を振り返る話である。

指導にあたっては、まず、働く人々、藩の重役、藩主頼恕、栄左衛門の気持ちを探る。そして、藩の重役と栄左衛門の心情を比べながら、藩主頼恕の目に光ったものの意味を考えさせることで、栄左衛門の郷土への思いに迫らせたい。また、郷土の未来を思い描きながら、困難に負けない強い意志にも注目させる。

終末では、「心のノート」を使って、「ふるさとに自分ができることは何か」という観点で話し合いをさせ、自分も郷土の一員であるとの自覚をもたせ、郷土の発展に努めようとする心情や態度を育てたい。

3 板書例



4 本時の学習

(1) ねらい

藩主頼恕の目に光ったものを通して、ふるさとを愛する栄左衛門の強い思いに触れることで、郷土を愛し、郷土の発展に努めようとする心情や態度を育てる。

(2) 学習指導過程

学習活動と学習内容	生徒の意識の流れ	教師の支援活動
1 「塩づくり」について知っていることを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 昔は大変だったんだ。 香川県は有名だったんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> 塩田について補説する。
2 資料を読み、学習問題をつかむ。		<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちが動いたところに線を引ながら資料を読ませる。
栄左衛門のどんな思いが頼恕の心を打ったのだろう。		
3 資料を読み、働く人々、藩の重役、栄左衛門の気持ちを探る。	<ul style="list-style-type: none"> 苦しいはずなのに、働く人々がいきいきとしているのはなぜだろう。 栄左衛門の献身的な働きが人々の心を動かしている。 藩の重役は、「藩の権威」「殿の御威光」「功績」など体面ばかり気にしているのではないか。 栄左衛門は、重役とは対照的だなあ。 重役も藩のことを心配するという意味では同じかもしれない。 栄左衛門の強い意志はどこから生まれるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> いきいきと働く人々の姿からその心情を想像させる。 藩の重役と栄左衛門を比べながらそれぞれの心情を想像させる。 重役の立場からも塩田の開発を考えさせる。
①働く人々		
②藩の重役		
③栄左衛門		
4 藩主頼恕の目に光ったものについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 栄左衛門のふるさとを思う気持ちに打たれたのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「栄左衛門には～感じられた」から栄左衛門の心情についても考えさせる。
5 自分たちのふるさとについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ふるさとのために自分ができることは何だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 心のノート (p122, 123) を活用し、自分たちのふるさとについて考え、交流させる。

(3) 評価の観点

- 藩主頼恕の心情を想像することができたか。
- 自分たちのふるさとのために、自分ができることは何か考えようとする心情が高まったか。

5 他の教育活動などとの関連

総合的な学習の時間の「地域学習」や「ボランティア活動」と関連して学習を行うことができる。